

【小学生の部】 環境大臣賞

秦野市立南小学校6年 長谷川 結恵（はせがわ ゆめ）

「命の大切さを学んだ夏」

私は生き物が大好きです。家では、うさぎを一羽飼っています。名前は「モカ」です。毎日、声をかけたり、エサをあげたり、ケージのそうじをします。ネザーランドドワーフという種類のうさぎで、とても小さいけれど、うれしい時、怒っている時、体調が良くない時など、小さな仕草で伝えてくれる姿を見ると、守ってあげるのは私たち家族なんだと、考えます。

私は、小学一年生の秋から乗馬を習っています。馬は、体が大きいけれど、臆病なところもあります。でも、目や耳の動きを見て、馬に乗り、私の合図に合わせて、速歩や駆歩をしてくれると、心が一つになった気持ちになって、とてもうれしいです。レッスンが終わると、馬の背中にブラシをかけたり、水を飲ませて話かけます。馬たちの目を見ると、リラックスしたような顔をしてくれるのも、とてもうれしい気持ちになります。

私は将来、動物に関わる仕事を目指しています。その中で、じゅう医師の仕事に、とても興味があります。動物たちの小さなサインに気付き、ケガや病気になった時に助けてあげたいからです。その思いが強く、夏休みに神奈川県動物愛護センターの見学会に参加しました。そこでは、職員のじゅう医師から、色々な理由で飼えなくなつた犬や猫の歴史と、今の状況について話を聞く事ができました。ただ、かわいいと思って飼うだけではなく、災害時や、飼い主が体調をくずした時に、どうするか等、万が一の場合についても考え、「終生飼養」することが、大切であることを学びました。

神奈川県動物愛護センターには、さまざまな理由で飼い主から保護された犬や猫、ニワトリやうさぎがいました。職員の人たちは、暑さや寒さ、一頭一頭の全身状態を観察し、それぞれに必要な治りようや、訓練をして、次の飼い主の元にじょうとできるようにしていました。室内は、とてもきれいで、家の中をイメージしたスペースや、一頭ずつ自由に過ごせる部屋になっていました。バックヤード見学の時は、白衣を着て、消毒をして入りました。保護された動物たちを感染から守り、安全な環境で管理されている事を学びました。

見学をしていて、やせ細った老犬や、病気により、毛が抜けてしまった猫たちについて、職員の人が「この子たちも、新しい飼い主さんを待って治りようしています。」と教えてくれました。私は、その犬や猫たちを見て、かわいそうと思ったけれど、見学して、どうしたらこういう子たちが減るのかと考えました。動物を飼うという事は、飼い主が、最後まで責任を持ってお世話することが、とても大切だと思います。かわいいからこそ、一生守っていく責任が飼い主に必要で、なくてはならないと思いました。

神奈川県動物愛護センターの見学会に参加して、私はもっと動物の事を学びたいという気持ちが強くなりました。そして、大切に育てているうさぎのモカや、乗馬クラ

ブの馬たちとの時間を大切に過ごしていきたいと考えました。いつもと変わらない姿に見えて、小さな変化に気付けるようになりたいです。

これからも、たくさんの生き物を見たり、触れたりしながら、命の大切さや、飼育する責任、私に出来る事は何か、考えていきたいと思います。そして、大切に育てているモカが、楽しく毎日を過ごせるようにしていきます。

将来、動物たちに囲まれた仕事につけるようになった時、乗馬クラブや、神奈川県動物愛護センターの職員さんのように、優しく動物たちに寄りそえる人間になりたいと思いました。今、出来る事を一つ一つ考えて、将来の私に、つなげていけるよう頑張ります。